

FREE ^{JMUW} vol.39
Aug. 2019

SPECIAL FRONT INTERVIEW

CrazyBoy

from 三代目 J SOUL BROTHERS

MUSIC TRIBE SPECIAL INTERVIEW 01

Lugz&Jera × 山本彰吾
(THE RAMPAGE from EXILE TRIBE)

MUSIC TRIBE SPECIAL INTERVIEW 02

SUGAR SHACK FAMILY

MUSIC TRIBE SPECIAL Feature

Artist's comment

SPECIAL COLUMN

EXILE TETSUYA

JMUW × FAGIANO SPECIAL INTERVIEW

田中裕介

FAGIANO OKAYAMA DF 8

54+

JAPAN MOVE UP WEST



2019年、JAPAN MOVE UP WESTは、
エンターテインメントの力で、岡山県を始め中国四国エリアにさらなるムーヴメントを起こすため、
FREE PAPER、EVENT、WEB等、従来のメディアを多角的に活用し、
まち、人、お店などを“つなげる”メディアとして、皆様にサービスを提案していきます。

JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会 加盟企業一覧 (2019年8月11日現在)

株式会社 祥 株式会社 DMM.com アシード株式会社

special partner **コカ・コーラボトラーズジャパン株式会社** **イオンモール岡山**

JAPAN MOVE UP WEST 賛同企業加盟・その他お問い合わせは右記まで JAPAN MOVE UP WEST 実行委員会運営事務局(株式会社 HEADLINE WEST/TEL:086-250-8089)

SPECIAL FRONT INTERVIEW

三代目 J SOUL BROTHERS・ELLYのソロプロジェクト
CrazyBoy from 三代目 J SOUL BROTHERSの『PINK DIAMOND』

三代目 J SOUL BROTHERSでパフォーマーとして活躍するELLYが、ソロプロジェクトである
CrazyBoy from 三代目 J SOUL BROTHERS(以下CrazyBoy)として、
デジタル配信シングル『PINK DIAMOND』を8月23日にリリースする。

新曲はピンクダイヤモンドのような
女性を追いかける恋愛模様を乗せたダンスチューンで、
CrazyBoyにとっては新しいトライ。
レーベルを移籍し、ロゴも一新して、
新しい時代に大きな一歩を踏み出した。



――7月に米ロサンゼルスで行われたライブ『OTAQUEST』に、m-floさんや HIROOMI TOSAKA(三代目 J SOUL BROTHERSの登坂広臣)、きゃりーぱみゅぱみゅさんと一緒に出演しましたが、ライブはいかがでしたか？

率直にすごく楽しかったです。どんな反応になるだろうと思っていたんですが、いざやってみるとすごく盛り上がって、僕自身もそうですけど、スタッフと一緒に出演していた臣(登坂広臣)も驚いていましたね。はっきりいうと、一番の盛り上がりだったと思います！音楽性もLAにフィットしていたんだと思います。みなさんに自分の音楽を喜んでもらえたということはすごくうれしかったです。ライブの後は、自分が思ってもいなかったオファーがあったり、現地の業界の方から連絡をいただいたり、予想だにしないことが起きています。LAでは初めてのライブだったんですがチャレンジして本当に良かったです。

――CrazyBoyは、もともと世界も視野に入れたプロジェクトなのでしょうが？

HIPHOPとかダンスミュージックという枠ではなくて、日本にいるアーティストが作る音楽が世界に出ていくというのが僕の目指すアーティスト像。だから、世界は常に意識しています。

――『OTAQUEST』では、自分の思い描いていた像に大きく一歩踏み出せた？

一歩どころか、ひとつのライブで5、6歩進んだって。プロデューサーの方だったり起業家といった現地の方に「CrazyBoyは明確にメロディーラインのあるポイントだけ変えればアメリカで必ずBillboardのTOP5やTOP3に入れるアーティストになれる」って言ってもらえたんです。なぜかという、圧倒的にダンスが踊れたから。アメリカではダンススキルも見られるので、勝負できるダンススキルを持っていたのはラッキーでした。アメリカではがっつり歌って踊る男性アーティストが少ないので、その可能性を感じてくれたのかなと思います。

――オーディエンスの反応はもちろんですけど、業界で仕事をしている人からフィードバックをもらえるのはうれしいことですね。

そのシーンで動いている人たちですから、すごく自信になりました。新しい可能性を僕自身も知ることができたのでこれから楽しみです。

――23日にデジタル配信シングル『PINK DIAMOND』をリリースされます。この曲もライブでパフォーマンスされましたが、レスポンスはいかがでしたか。

先ほどの話と重なるんですが、新曲でこんなに反応があると思っていなかったのが驚いたんです。マジで!?みたいな(笑)。何に反応してくれたかという、やっぱりダンス。SNSの書き込みでも「この人は本当に踊れるアーティストだ!」って投稿してくれている人がたくさんいて、自分の強みが伝わったんだと思いました。ちゃんと見てもらったの分かりました。

――追い風を受けての、リリースということになりますね。さて、この曲について伺いたいのですが、この楽曲はどのように生まれたのでしょうか。

去年、一時期三代目(J SOUL BROTHERS)の活動がない時期があった、そこでCrazyBoyとしてソロツアーをやりたいなと思ったんです。

ツアーをやるとなると楽曲が必要で、急ピッチでたくさん作ったんです。シングルではなく4曲ずつリリースしたりアルバムを出したり、今までやったことのないスタイルで楽曲を出しました。ライブをしたかったし、全国の応援してくださっているファンの皆さんにも会いたかったし、少しでも皆さんと楽しい時間を共有できる良い時間を作ることができました。ただ、ライブを目指して急いで制作していたこともあって、その時には、本当に自分が見せたいものにフォーカスする時間もなかったし、自分の考えもそこに向かなかったんです。だけど、この楽曲は、初めてシングルとして出そうと作った楽曲。自分の強みを全部入りたい。そうしたら、やっぱりダンスミュージックで、ラップだけでなく、メロディーもあって、高音で歌うところがあったりと、今までやってないメロディアスな部分も付け加えて制作しました。自分の魅力だろうとおもうところ全てを表現した1曲になっています。

――自信作ということだと思うのですが、そう思える作品に仕上げることができたのは、「とにかく楽曲を数作る」という段階を経たからこそ、なのかも。

スピーディーにいろいろな楽曲を作ることで成長できたり、後から聴いて反省点や良いところを自分で理解して整理して落とし込むことができるようになったから、この曲を作れたと思います。

――ダンスミュージックにもいろいろなタイプのものがあって、この楽曲はストリングスだったり、楽曲のアレンジメントだったり、豊かな印象です。

イントロはストリングスを使ってバイオリンのような音で始まるんです。最近クラシックも聴くんです。普段の生活のなかでそういった音楽を聴いていたから、そういったアイデアや発想も生まれたりするんだと思います。たくさん曲を作っていた時期と、その経験があったからこそ、今の自分に出会えた。それを通して全部に磨きをかけ精査して、自分の魅力も含めて、全部のピースをダイヤモンドにできたかなと思いますね。

――曲名のダイヤモンドってそういう意味が……!

最初は『BLACK DIAMOND』っていうタイトルだったんです。臣が『BLUE SAPPHIRE』を出していたのも頭に残っていたりして、石の名前で出したいなっていうのは頭の中にはあって。それで、曲を作っている時にふと、「ダイヤモンドみたいな輝きになりそう」って思って。この曲は、ダイヤモンドをベースにできているんです。曲の途中に入っているキランっていう音はダイヤモンドの光る音だったり。

――色がピンクになったのは？

この曲は自分が女性を追いかける恋愛ソング。そこでピンクがついてきました。ピンク=女性の色っていうイメージもありますし、実際にピンクダイヤモンドもあるし。ピンクダイヤモンドは一番高価なダイヤモンド。自分が追いかける女性も一番だと思いたいですし。

――女性を追いかける恋愛ソングという発想はどこから？

この曲を作っている時に、『Mr.&Mrs Smith』という映画が頭に浮かんだんです。あの感じがすごく良いなと思って、危険な恋をテーマにしているんですけど、結局最後はくっついて。あの映画は個人的にもすごく好きなんです。そこからインスピレーションを受けて、好きな女性を追いかける気持ちをダンストラックにのせたいと思いました。それ

で、君が欲しいって女性にアプローチするダンスミュージックが生まれたんですけど、そもそもこういうサウンドでそれって成立するのかな?とったりもしたんですけど、その内容にメロディーがついてきたり、高音のパートがあったりで、伝わる内容になったかなと思います。ミュージックビデオを見てもらえるとより分かるかな。

――楽曲を作る際に、映画からインスピレーションを受けることは多いんでしょうか。

基本的には自分の実生活で感じたことの方が多いですが、映画を観るのが好きだからインスピレーションを受けることは結構あります。『PINK DIAMOND』を作っているときは、自分で編集して、『Mr.&Mrs Smith』のワンシーンに音源をはめてみたりして。そしたらめっちゃいいじゃんって! (笑) それを自分のミュージックビデオにも活かしたりしています。

――ちなみに、今回の衣装がスーツなのも映画の影響でしょうか？

(笑)。というよりは、派手な感じだったり攻撃的な衣装、『LOCO』では、白の世界で踊ってみたい、今までいろいろなスタイルに挑戦してきたんですけど、令和になってロゴも変わって、自分のやりたいことを幅広くできるレベルにも参加させてもらって……、ここからはスマートに自分の目的とする場所にたどり着けるなということがわかったので、シンプルにスーツで勝負したいなと思って。

――削ぎ落としたというか、もう余計な装飾はいらない、みたいな。

そうですね。シンプルな新しいビジュアルだなと思ってもらえたら。映画でいうと『GOLDENEYE007』や『MEN IN BLACK』みたいなエージェント? 音楽業界に何かを発信していきたいというか、日本のダンスミュージックを世界に発信していくエージェントは自分になって。

――年号が変わったりリレベルが変わったり、フレッシュな気持ちで意欲が湧いている!

全部のタイミングが良すぎましたね。本当にこれからが楽しみです。やってきたことが、いろいろな人に理解してもらえて、気づいたらこんなオファーをもらえるんだとか、パフォーマーが音楽を始める時に今みたいなことを想像できたかと言われたら、多分誰も想像できなかったことが起きています。

――ELLYさんのために、いろいろ「整って」きてますね。

『NEOTOKYO』って、未来を作るってやってきて良かったなと思っています。

――そういえば、Jr.EXILE世代の新プロジェクト『BATTLE OF TOKYO』で、『新TOKYO』とか『超TOKYO』といったコンセプトが出てきましたね。ELLYさんの『NEOTOKYO』が今ではLDH全体に広がっている印象です(笑)。

今では20〜30人ぐらいラップしてますからね(笑) 女の子のグループでもラップしたり、パフォーマーがラップしたり、気づいたら三代目のリーダーもHONEST BOYZ®でラップしていますもんね(笑) でも、そんな常識もなかった頃に新しい常識をつくることができて良かったなと思いますし、後輩たちも感謝してくれたりもするので、先輩らしいというか、LDH内でエンターテインメントの開拓ができたのは良かったと思います。

色々な経験があったからこそ、今の自分に出会えた。
それを通して全部に磨きをかけ精査して、自分の魅力も含めて、

全部のピースをダイヤモンドに
できたかなと思いますね。



―――ELLYさんだからできたことだと思います。

僕は自分が本当に好きなことをまっすぐやりたいという気持ちが強いんです。いろいろな壁もあると思うけど、それは自分の中で突破できると信じています。だから、J-POPのスタイルで、なおかつ格好いいと思ってもらえるものを届けたい。それは海外も同じです。コラボレーションもJ-POPの枠にとどまらず、K-POPでもアメリカの音楽でもチャンスがあるならコラボしたいと思っています。

―――これからのCrazyBoyの活動がすごく楽しみです。最後に読者へメッセージをお願いします。

いつも応援してくれている皆さんに直接会えるのを何より楽しみにしているので、会える時間は一緒に楽しめたら良いなと思います。行ける場所は限られてくるかもしれないけど、なるべく全国行きたいと思っています。

Message to the readers of Okayama

岡山の皆さんはいつも温かく迎えてくれて
楽しい時間を過ごしているので、
またみんなと同じ楽しい時間を過ごしたいです。
ライブではまだ行ったことがないので、
今度はちゃんとライブとしても行けるようにしたいと思います。
皆さんとお会いできることを楽しみにしています。

Digital Single「PINK DIAMOND」
8.23 release!!



【ミュージックカード】
※『三代目 J SOUL BROTHERS LIVE TOUR 2019 "RAISE THE FLAG"』会場 / EXILE TRIBE FAMILY OFFICIAL CD・DVD SHOP / LDH official mobile CD/DVD SHOP / mu-moショップ限定販売商品です。
【タイプA】 XNLD-10037 ¥500(税込)
【タイプB】 XNLD-10038 ¥500(税込)
【タイプC】 CXNLD-10039 ¥500(税込)

【特典】オリジナルポストカード
※EXILE TRIBE FAMILY OFFICIAL CD・DVD SHOP、LDH official mobile CD/DVD SHOP、mu-moショップ限定特典です。
※三代目 J SOUL BROTHERS LIVE TOUR 2019 "RAISE THE FLAG"会場スクラッチカード抽選会での参加賞と同じ品物となります。

毎日降る雨と、ジメジメする湿気...
梅雨のこの時期が好きな人ってなかなか聞いた事がないのですが、僕は意外と好きなんですよね。

不本意に雨に濡れるのは好きじゃないけど、落ちてきた雨が、屋根や傘に当たる音は好き。

ジメジメした部屋に帰って、除湿のボタンを押す瞬間もたまらなく好き。

扇風機を出して、首振りが行き過ぎないように角度を調整していると、もうすぐ夏だなあ、なんてスイカが食べたくなる感じも凄く好き（笑）。

そういえば今年は、早い段階からスイカを食べまくってる事に気がつきました。果物売り場に行くと、スイカが並んでるといつい買っちゃいますよね（笑）。なんでスイカってあんなにも美味しいんだろ、そしてあの絶妙な歯ごたえがなんとも言えない美しさです!! 夏のフルーツって、数々のツワモノ達が勢揃いしていますが、僕の中での「KING of 夏フルーツ」は、間違いなくスイカです!! 圧勝です!

なんて話していると、梅雨が好きとか嫌いとか、そんなに関係なくて、ただ夏が大好きだから、ワクワクしてるって事なんです（笑）。文章書きながら自分を知るみたいな感じになってしまいましたが、夏と言えば、東京お台場の居酒屋えぐざいるも始まり、今年も夏モードで活気づいてきました!!

ご来場された皆さん、急な雨に濡れて風邪など引かないように気をつけてください! サバイ

バル術で一番大切なのは、濡れない事、濡らない事って、33歳の時に習った事があるので（笑）。

って、さっきからなんの話かわからなくなってきましたが...

先日発表になりました、朗読劇「青空」に出演させていただくことになりました!!

前フリ長っ!!（笑）

皆さん、朗読劇ってご存知ですか？ 舞台は舞台なのですが、台本を持ったまま、お客様に読み聞かせのような形式で、俳優の皆さんが演じる台本読みながらの舞台劇の事です。

僕が出演する「青空」は、EXILEの「道」の作詞や、僕の初舞台「アタックNo.1」からお世話になっている、榎田ショウゴさんの作・演出で、時代は昭和、戦争中に生き抜いた、少年と犬と猫の心温まる物語です。

期間中は、毎日出演する役者さんが変わって、いろんなバリエーションが楽しめると思います。ちなみに僕の出演は、8月9日の初日と18日の千秋楽の2回です。他にも素晴らしい役者の皆様や、LDHの仲間たちも出演するので、ぜひひお楽しみに!

さらに、お楽しみな解禁がもう一つありました! 今年の1月に、僕がプロデュースするAMAZING COFFEE とローソン マチカフェさんとのコラボレーションメニューが、本当にありがたい事に、全国の皆様に大好評を頂きまして、この夏



コラボ第2弾がスタートする事が決定しました!!

今回は夏の発売ということで、アイスドリンクになっていますが、めっちゃ美味しくてめっちゃ楽しいドリンクになりました!

全国のファンの皆様に、エンターテインメントコーヒーショップとして、楽しんで頂きたい気持ちで、プロデュースさせていただいておりますが、なかなかお店に行く事が難しい方々もいらっしゃるので、このコラボは僕にとっても本当にありがたい事です。

マチカフェチームの皆さんと一緒に、完全なる

美味しいコーヒーを作らせて頂きましたし、さらにたった一杯のコーヒーで、あふれ咲く笑顔の花が、全国に広がってほしいと願いを込めて、引き続き盛り上げていけたらと思いますので、8月20日のスタートまでもう少し待っていてください!

術後の膝の調子も、順調に回復はしておりますが、まだ全力ダンスまではもう少し時間がかかりそうなので、今できる事や、皆さんに楽しんでもらえる準備を、着々と一つひとつ進めて形にしていきたいと思いますので、今後とも温かく見守って頂けたら幸いです(^o^)/

19歳よりダンスを始め、EXILE PROFESSIONAL GYMにてインストラクターを務める。2007年に、二代目 J Soul Brothers のメンバーに抜擢され、2009年2月25日に、アルバム『J Soul Brothers』でメジャーデビューを果たす。そして、同年3月1日に EXILE 新メンバーとして加入し、2011年には、THE SECOND from EXILE としても活動を始める。また、個人活動として 2011年に月刊 EXILE にて、自身が所長を務める『EXILE パフォーマンス研究所』の連載を開始する。2014年4月、淑徳大学人文学部表現学科の客員教授に就任する。そして、2015年4月に EXILE USA が活動を行っている DANCE EARTH PARTY の正式メンバーに選ばれる。2018年3月、早稲田大学大学院スポーツ科学研究科を卒業。そのほか、役者としてドラマや舞台に出演するなど、さまざまな活動を展開し、エンターテインメントの可能性を広げている。

素顔の田中選手に11問11答でお答えいただきました!

01.子供の頃はどんな子供だった?

幼稚園くらいからボールを蹴ってました。
小1の時にJリーグが開幕したのをきっかけにサッカーにのめり込みました!
当時活躍していたカズさん(三浦知良選手)たちをみてプロになりたいと思い始めましたね。

02.周りからどんな人って言われる?

活発!かな。
誰とでもすぐコミュニケーションを取ったり休みがあれば色々なところに出勤します。

03.よく聴くアーティストや曲は?

平井大・SPiCYSOL
サーフミュージックをよく聴きます♪ SPiCYSOLは、#6喜山の影響かな(笑)。

04.つついやってしまうクセは?

掃除ですね! ロッカールームとか汚いと思ったらすぐ自分の家のように掃除機をかけます。
僕のロッカー周辺は常に綺麗さを保っています!(笑)。

05.「オレってカッコいいな」と思う瞬間はどんなとき?

やっぱりサッカーをしている時かな?
ディフェンダーなので相手をスパッと止められた瞬間とかに
カッコいいな~というよりは上手くやったな! 気持ちいいな! って感じかな。

06.オフの日何してる?

1日オフの日は、人混みが苦手なので
人の少ない朝の時間を狙ってスーパー銭湯に行きます。
午後は、カフェに行ったりしてゆっくり過ごすかな~。

連休なら旅行だったりどこかに出掛けます!

07.仲のいいチームメイトとの仲良しエピソードを教えて!

同世代は仲良いかな。(#14上田・#6喜山・#13金山など)
よく車1台で買い物やランチに行きます!
この前も、ちょっと遠くの山の上にあるお店に行きました!!

08.田中選手が知っているチームメイトの意外な一面を教えて!

#24赤嶺さんは、沖縄出身ということもあって時間的にもゆっくり過ごしてそうなイメージがあったんですが、実は誰よりも早くグラウンドに来て準備をしていてびっくりしました!

多分、2時間半前とかに来てますね。
僕で、練習の1時間40分前とかだから。

09.女性の思わずグッとくる仕草は?

笑った顔かな~。
表情が豊かで素直に感情を表現する人がいいな。

10.岡山に来て感じたことや印象を教えて!

サポーターのみなさんが あったかい!
大阪から来たからかな?人や車の流れもスローに感じますね。

11.岡山での理想のデートプランは?

岡山に来て行ったのは 牛窓や児島の“王子が岳”
景色もよくて絶景でした!デートにもピッタリかな?
まだ、行ったことのない県北や蒜山に行ってみたいかな~。

vol.9 田中裕介

田中 裕介 -たなか ゆうすけ- 1986年4月14日 181cm/77kg 東京都出身

今季より、セレッソ大阪からファジアーノ岡山に移籍し、DFとしてチーム全体をみて指示を出し、若い選手を落ち着かせるなどチームを支え、活躍している田中選手。
大阪からきた田中選手は「岡山は、時間がゆっくり流れているように感じる」と、意外な岡山のイメージを教えてくれた。

ET-KING



Summer of 2019
一押し楽曲

♪ こんないい夜

ET-KINGがdoo-wopで表現した大切な人とのラブソング！アルバムsevenstarsに入ってる曲で音にもこだわりがあり、音の配置にも注目して聴いてもらえたら最高です！解る人には解る一曲なので聴いてもらいたいです！@BOOBY

Summer of 2019
計画中!!

フェス参戦!!

この夏やりたいことは“フェスに行く！”です。今まで出させてもらうことはあったんですが遊びに行くことがなかったんで今年はフェスで好きなアーティストのファンの方と友達になって一緒に踊る事を目標にします！しかも仲良くなった後に自分らの音楽も聴いてもらうように促すという流れに持っていきます！@こしけん

Summer of 2019
一押し楽曲

♪ Wiggle It ft.City Girls
French Montana

めちゃくちゃ踊れる。可愛い女の子とクラブで飲みながら踊りたい曲ナンバーワンだから。今、クラブで自由に踊る事ができないため毎日妄想してます。。切ない。。

COLOR CREATION



Summer of 2019
一押し楽曲

♪ Sunshine

カラクリ1番のアップチューンで夏にぴったりの楽曲です！夏らしいことをする時に聴いてもらえたら気分が上がること間違いなし！ライブでは会場全員でタオルを回す曲なので、是非この曲と一緒に僕らと夏の思い出を作してほしいです！

Summer of 2019
計画中!!

バーベキュー!!

この夏は、メンバー5人で、川でバーベキューを企画しています！去年は時間が作れずプライベートで夏を満喫出来ていなかったのが、今年はオフの日メンバーでバーベキューをして、自然を感じながらスイカ割りをしたり、お肉を焼いたり、美味しい食べ物を食べたりして、この夏を満喫したいです！

MUSIC TRIBE 2019 × JAPAN
special
MUSIC TRIBE SPECIAL
Artist's collection

Summer of 2019
一押し楽曲

SUGAR SHACK FAMILY



Summer of 2019
一押し楽曲

♪ SUGAR SHACK

上がりたい時にはもちろん、コレ！夏という最上級な季節にぴったりの一曲。

Summer of 2019
計画中!!

みんなで集まって…

夏といえば、、、スイカ割り。海。キャンプ。リハーサルとかでは集まったりするけど、最近みんなで食事をしたりすることがなかったので、MUSIC TRIBEの打ち上げも兼ねて絶対歌わない、音楽の話をしてない集まりをしたいですね。

THE BEAT



Summer of 2019
一押し楽曲

♪ 花火

タイトルの通り夏をイメージして作った曲です。好きな子と花火を見に行って雨が降ってしまった日のことを綴った曲なので、今恋をしている方や、花火の思い出がある方は共感しながら聞いてもらえたら嬉しです！疾走感があり過ぎないので、夏どこかに出かける時にドライブをしながら聞いてもらえたらちょうどいい快適な運転をしていただけるかと思います(笑) YouTubeにもアップされているのでぜひ聞いてみてください！

t-Ace



Summer of 2019
計画中!!

「コソコソと…」

お祭りにコソコソ行く。可愛い子集めてコソコソBBQ。海の家を貸し切りにしてコソコソコンパ。後はひたすら仕事。。

PAN MOVE UP WEST
e d i t i o n

AL Feature
mment

Summer of 2019
計画中!!

GARDEN



Summer of 2019
計画中!!

温泉巡り。

僕たちビートガーデンは温泉が好きです。ツアーやイベントで色々な場所に行かせていただけるので各地の温泉巡りをしてみたいです。温泉とは関係ないですが、ボーカル3人でこの夏に沖縄に行きました。DJのさとはるは沖縄を計画したときに一緒にいましたが、すでに同時期に旅行の計画を立ていて、正反對の北海道に行きました(笑)メンバー仲良しです(笑)

Lugz&Jera



Summer of 2019
一押し楽曲

Summer
Time Dreamin'

開放的になるこのシーズン、しみりバラードもいいけどバカ騒ぎでしょう！
フェスでタオルを振り回して、最高の思い出を作りましょう。

Summer of 2019
計画中!!

南の島で...

南の島で一日中何もしない。太陽とトロピカルジュースを友達に遊びたいw リアルな話は、初めてFCイベントでBBQパーティーをするので、それも楽しみです。



THE RAMPAGE from EXILE TRIBE @山本彰吾

Summer of 2019
一押し楽曲

♪ One More Kiss

「WELCOME 2 PARADISE」のカップリング曲で、セクシーなバラード曲になっています。90年代や00年代のR&Bが好きな方にはぴったりな楽曲になっていますし、明るい夏とは違うどこかセクシーなRAMPAGEの夏を感じていただけると嬉しいです。

Summer of 2019
計画中!!

日本各地の
世界遺産を…

日本にある世界遺産をメンバー1人ずつ回って、最後にみんなでどこか大きなところに行って何か挑戦したいです。例えば富士山登頂とか。それぞれが回った世界遺産を写真に撮ったりしてRAMPAGEで日本の世界遺産を制覇できたら良いなという密かなプロジェクトを立てています(笑)

GARDEN



Summer of 2019
一押し楽曲

♪ ギミナツ

G.U.M唯一のサマーチューン「ギミナツ」は「夏を終わらせたくない」「ギブミー、ナツ!!!」から「ギミナツ」というタイトルとなっています!! 今年の夏まだやり残したことがある人は「ギミナツ」を聞いて最高の「ナツ」にして下さい!!

Summer of 2019
計画中!!

皆さんの思い出が…

この夏やりたいことは、G.U.MのYoutubeチャンネル「G.U.Mちゃんねる」の撮影で海に行ったり、G.U.Mを応援してくださっている皆さんの夏の思い出が「G.U.MのLIVEに行った事!!」になれる様、まずは「MUSIC TRIBE」でたくさんの人にG.U.Mを知ってもらうことです!!

人生100年時代と言われている中で、
現実的に言うと70歳の時も
このメンバーでアーティストでいたい。



やばいね(笑)
ヨボヨボになりながらキー落とそうってね(笑)

Lu&Jera／ラブズ・アンド・ジェラ)以下、LJ「僕もメンバーの一員なのですが、まずはSUGAR SHACK FAMILYの結成のきっかけは？」

LBROTHERS TAKANORI(以下、TAKANORI)「最初はFull Of Harmonyが中心となっていて、日本のR&Bシーンを盛り上げるために集まろうと呼びかけて、それに賛同して集まって結成されたのがSUGAR SHACK FAMILYだよ」

Full Of Harmony Mhiro／HIRO(以下、Mhiro)「FAMILYというだけあって、一つの屋根、R&Bという家に、R&Bを愛した、日本でもR&Bを盛り上げていこうという意思を持って頑張っていたアーティストが自然に集まったと思っています。みんなが肩の荷物を降ろして気楽に団欒できる、本音を分かち合える家族が集うそんな場所だと感じています」

LJ「SUGAR SHACKという名前が生まれたのが2008年あたりで、その時はまだ『SUGAR SHACK FAMILY』ではなかったですよ」

Full Of Harmony ARATA(以下、ARATA)「そうだね。もともとはボールルームというR&Bを「セプト」にしたイベントから始まって、こんな楽しいイベントができるんだというのを思っ、名前を変えてR&Bに特化したSUGAR SHACKというイベントとしてスタートしたんだよ」

LJ「10年以上前になりますよね。そこからSUGAR SHACKが生まれたと言っても過言ではないイベントですね。その当時、男性アーティストが中心となっていたイベントだったんじゃないっか？」

TAKANORI「そうだね。だから珍しかったと思う。日本でR&Bが盛り上がった時は、女性アーティストの方がパワーがあったもんね。そこから、男性アーティストも頑張ろうよということでボールルームがあったから、結構画期的な面白いイベントだった」

ARATA「HIPHOPとかレゲエで、割とカルチャーがでやすく、みんなが集まりやすい文化があると思うんだけど、R&Bにはそういう文化がなかったですよ。なんとか仲良くみんなでR&Bシーンを盛り上げたいという思いがあった。LBROTHERSさんがあんまり仲良くしてくれなかったから――」

TAKANORI「おいおいおいおい(笑)」

LJ「僕とJAY・EDさんは大阪で活動していましたが、僕らの時代は当時第一線でR&Bシーンで活躍されていたのがFull Of HarmonyさんやLBROTHERSさんだったりしたのでそれを見て育ってきた感じがしています」

Mhiro「世代によって、やっぱりR&Bの形が違うよね。多分、LBROTHERSだったりFull Of Harmonyの時代って、R&Bシンガーが本場に周りにいなかったから、自分たちが探したものでぶつやつと表現していたのかが、先決にあった。10歳下の世代になると僕たちの音楽を聴いてくれている人がいて、今の30代のR&Bシンガーの方たちの人生の中に僕たちのR&Bを入れてくれている世代だ」

思うんです。だから僕たちよりもさらに進化しているし、またその下の世代も進化していると思う。R&Bってこの繰り返しじゃ絶対必要で、まだ日本では歴史がそこま浅いじゃないですか。でも僕たちがずっとやってきて感じることは、この繰り返しをする中で日本のR&Bという音楽の文化がまずはサッカルチャーとして生まれてくるんじゃないかなという明るい未来が見えてきたと僕は感じています」

TAKANORI「よく考えるとSUGAR SHACK FAMILYって面白いのが、Full Of HarmonyやLBROTHERSという日本でのR&Bシーンを開拓した世代とその道を歩んできた世代とさらに新しい世代の3世代がFAMILYの中にいるというのはすごく面白いですよ」

Mhiro「SUGAR SHACK FAMILYではなくても、R&Bが好きで歌っている人はたくさんいるし、今はまだまだとは思ってますけど、これからすぐ日本のR&Bシーンが盛り上がりて行くと思いますね。だからSUGAR SHACK FAMILYはすごくやりがいを感じていますし、頑張らないといけない」

LJ「SUGAR SHACK FAMILYというR&Bの家のもと、SUGAR SHACK FAMILYはただの家じゃなくてR&Bシーンの底上げを目指しているということですね」

ARATA「最初はSUGAR SHACKも決まったメンバーじゃなかったから、毎回色々なアーティストさんと呼んで、ライブをやったりクラブイベントもやっていただけで、その時から毎回はこのアーティストさんと呼ばれるというのも決めていたから色々な方が関わってくれていたよ」

LJ「SUGAR SHACKがレギュラーのイベントでスタートした時は、深夜のクラブサイドとタ方のパーティーサイドがあって、パライティに溢れていたな」

ARATA「それによって、僕たちも色々な方と横のつながりができたというか、若手は話を聞いているだけに関われなかったりしていたので、そう言った部分ではすごくたくさんのつながりができた場所になったね。それがつのSUGAR SHACKの方向性にもなったかもしれないね」

LJ「SUGAR SHACKプロジェクトの初期には三浦大知さんにも参加していただいていたりしましたもんね。そういうところからR&Bシーンの活性を担っていたんだと思います」

Mhiro「それぞれがSUGAR SHACKというFAMILYになぞまらず活動しているというのは素敵なことですよ」

TAKANORI「この頑張った結果をあげて、SUGAR SHACK FAMILYに戻ってきて、またSUGAR SHACKを盛り上げようというのは昔から言っていて、さらにそこをまたFAMILYになれると良いね」という話はいつも打ち上げの時になってましたよ」

LJ「JAY・EDさんはLDHに所属されていて、LDHの一員として、またSUGAR SHACK FAMILYの一員として活躍されているわけですが、JAY・EDさんから見たらSUGAR SHACK FAMILYの魅力や感じることはありますか？」

JAY・ED「みんな同じだと思っんですけど、僕自身もR&Bという音楽を日本で追求した時に、Full Of Harmonyさん、LBROTHERSさん、HIROさんという先輩方がいらしてやって、それを見て自分も日本のR&Bというものにチャレンジしてみようというか、自分が良いなと思ったR&Bという音楽を少しでも次の世代に伝えていきたいと思いたし、自分たちが好きな音楽が日本でも溢れるようになって良いなという思いです。実際にLDHのアーティストさんの中にもR&Bに影響を受けている人もたくさんいらっしゃいますし、SUGAR SHACK FAMILYのことももちろん知ってくれていてリスペクトしてくれている人たちもいるので、そういうR&Bが好きな人たちをつなげていけるような役割をしていければ良いなと思っています」



LJ「みなさんそれぞれアーティストとして活動されていると思っんですけど、原点になっているのはR&B。みなさんがアーティストを目指したきっかけやその中でもR&Bを選んだのはなぜだったんじゃないっか？」

Mhiro「逆にLJはどうなの?」What's R&B?「ツアーもやってるわけし」



LJ「みなさんとは少し違うかもしれないですけど、中学校・高校の時は音楽にそこまで興味がなくて、流行り物に敏感な学生時代でしたね。流行っているものにとにかく飛びつきたいという感じだったので、高校を卒業して大学で大阪に出て、大学に入った時に出会ったのがHIPHOPだったりダンスカルチャーでした。自分の周りの友達がDJやMC、ダンスをやっている人が多かったので、せっかく周りにそんな仲間がいるなら自分も何かやりたいなと思って、その時誰も歌というのがやっていなかったで、歌をやったほうが目立つなと思って歌を始めたというくらい入り口でしたね。でもその一週間後くらいに、大阪城ホールでBOYZ II MENのライブがあったのでそれを観に行っ、そこからどっぷり歌に浸かりました。なので一番のきっかけはBOYZ II MEN、そこからR&Bを勉強していったという感じですよ」

LJ「みなさんにとってのR&Bとは？」

TAKANORI「僕にとってはSEX」

「同」「言っと思った(笑)」

TAKANORI「でも、僕たちの世代のR&Bってすごく要素強いよね。男女の恋とかベッドシーンのことを歌った曲がすごく多くて、アメリカのはそれをすごくカッコよく表現してるというところから、何でヒロチンでカッコい音楽なんだというなら、ダンスというところから、ローBROTHERS

は入っていて、ダンスの面でもそういうカッコよさも表現されている。音楽でそういう雰囲気表現できるってなんて斬新で刺激的な音楽ジャンルなんだろって思いましたね。HIPHOPではもう少し暴力的だったりセクシャルな部分を強く表現していて、耳を塞ぎたくないような部分もあんだけど、R&Bではそれを上手に表現していて、そんなに聴けるようなエンターテインメントに仕上げている。それが僕たちにとってすごく刺激的で、ダンスしかやっていなかった僕たちが、これを使ってフロントメンに立ちたいというところから僕たちはR&Bを勉強してシンガーとしても活動を始めたので僕たちにとってはR&Bとはそういうものかな。日本では結構タブーなところもあるけど、歌だけじゃなく見た目もそうですね。色々な要素を含めてR&Bとして受け止めた」

Mhiro「聴いてくたかなる方にもそういう風に思ってもらえないといけないかなもあるよね。デヴィシャルな部分はあるけど、そういう文化のもとに生まれた音楽でもあるから、その温度感を埋めるためにみんなHIPHOPの要素を入れたりして聴きやすくするようになっているんだよね。文化がないところに根付かせようとしているんだからもうん時間はかかると思っけ」

LJ「Full Of Harmonyさんの活動のきっかけとなったのは？」

Mhiro「僕たちは音楽学校を知り合ったんですよ。学校でそれぞれの歌も聴くし、ミニセッションも取れたので、その中で好きなものと同じという共通点がある仲間が自然にできたという感じですね。そして、それぞれの音楽にリスペクトをし合っ、みんなが歌う喜びも共通してあったのでグループ結成につながりました」



TAKANORI「僕たちは兄弟2人だけど、2人じゃできない3人のコーラスって魅力的だよ」

Mhiro「良さはありますよね。SUGAR SHACK FAMILYもそうですね。人数が多ければ多いほど、みんなのタイミングが合わないと集まらないわけじゃないですか。3人だけ、2人で練習しても意味がなくて、そういうところは大変でしたね。バイトが終わってから誰かの家に集まって、アーティストさんのアナログをかけて3人で歌ったり。青春してたな(笑)」

LJ「うわ、青春ですね。そういう時間を経て3人の絆を深めて来られたんですね。ARATAさんはいかがでしたっか？」

ARATA「Mhiroが言ったように、90年代初頭の男性ボーカルグループのブームがあったので、そこに僕たちは憧れてグループを組んだということもあります。なんで日本にはこういうグループがないんだろって思っていたし、Rhythm and bluesと呼ばれている時代からR&Bと呼ばれる時代になったわけですけど、アメリカの人たちは当時Rhythm and bluesとR&Bの音楽は違うと言っていたから、少しHIPHOP要素も感じながらも、グループ感があるR&Bがすごく流行っていたからそこを目指してた」

MUSIC TRIBE special interview 02



SUGAR SHACK FAMILY

たが、昨年の西日本豪雨災害などもあったりする中でひとつでも何かパワ―になれたら良いなと思います。踊ることも何かできるかと言われたら何も変わらないかもしれないけど、僕をみて何か感じていただけたリ元氣になつてもらえると僕たちが出演させていただく意味もあるのかなとすごく感じることができました。メンバーも岡山を好きでいてくれた事が、僕自身もすごく嬉しかったので、岡山でパフォーマンスをさせていただいた時は普段と少し違った鳥肌が立ちました」

——彰吾さんが岡山に戻ってパフォーマンスすることによって、岡山のファンの皆様もすごく喜んでいたのを僕自身も去年すごく感じて、今年が去年に続き、2年連続の出演となるのですが去年以上にその声が大きくなっているかと主催者として感じています。彰吾さんはいかがですか？

山本彰吾「それはとても嬉しいですね。僕たちもMUSIC TRIBEを少しでも盛り上げるのができれば良いなという気持ちで出演させていただくので、RAMPAGEとしても夏フェスはすごく大切にしています。そういった機会がないとなかなか行けない場所まで来てしまおうと思うんですけど、そういう機会だからこそ積極的に参加させていただけることが嬉しいですし、僕のルーツがあるイベントだったりもするので楽しみです。僕も岡山で踊っている時に出ていたイベントのスペシャルゲストでLugz & Jeraxさんが出演されていたり主催されていたイベントのフイヤーとかをよく見て育ってきたので、そんな方と一緒にお仕事させていただけるのも嬉しいですし、地元を愛している証拠だなと思うので、絶対に忘れたくないですし、これからも岡山第1で盛り返せるくらい僕が盛り上げたいなと思います」

——彰吾さんにとって岡山はすごく大切な場所なそうですね。将来的に岡山に恩返ししたいという気持ちは強いですか？

山本彰吾「そうですね。今色々考えていることがあって、岡山の食べ物も好きですし、岡山は制服とかジーンズの生産が一番というところも上京してから調べて知ったこともあったりしたので、LDHではファッションやアパレルも発展しているから、EXILE TRIBEやLDHなりの岡山の盛り上げ方というのを僕に託されている気がするのでも、これからも岡山を引っ張っていくつもりで頑張ります」

——ぜひ、引っ張っていくください！最後に、JAPANN MOVE UP WEST読者、MUSIC TRIBE 2019来場者へメッセージをお願いします。

山本彰吾「RAMPAGEはデビュー3年目になるんですけど、アリーナツアーも終わり、これからもっとRAMPAGEの真価や魅力が問われるタイミングだと思うので、僕たちは岡山の皆さんを筆頭に全国の皆さんを元気にできるように盛り上げていきたいと思っていますし、自分たちの夢の景色に皆さんを一緒に連れていけるように、これからも暴れまわっていきますので引き続き応援のほどよろしく願っています！ 岡山の皆さんは特に、山本彰吾というメンバーがいいますので山本彰吾をこ鼻屑にしてください、僕が岡山に帰った時は何か Mascot でも送っていただけたらなと思いますー(笑)」

——最高のコメントをありがとうでしたー！

Lugz&Jerax YAMASHO



8th Single
『WELCOME 2 PARADISE』
NOW ON SALE!!
CD+DVD
RZCD-86864/B ¥1,852(本体価格)+税(JAN:498806486864/3)
CD ONLY
RZCD-86865 ¥1,296(本体価格)+税(JAN:498806486865/0)

表題曲『WELCOME 2 PARADISE』はTHE RAMPAGE from EXILE TRIBEの新境地とも言える、「ゆるさ」がキモのサマー・アンセム!! 浮遊感あるトラックとメロウなメロディーが聴く者をレイドバックしたムードに誘う。
イントロから鳴り響く極太のベースラインなど、グループのアイデンティティであるHIPHOPのサウンド感もしっかりと踏襲しつつ、進化を続けるTHE RAMPAGE from EXILE TRIBEの新たな魅力が存分に詰め込まれた意欲作!
カップリング曲『SUMMER DAYS』は2年連続でイメージキャラクターを務める森永製菓『ICE BOX』のタイアップソング。

疾走するビート・躍動するピアノリフにより構成されるキャッチーなトラックに、スリーボーカルによる伸びやかなボーカルワークが映える「これぞ夏ソング」な仕上がり。ライブでも盛り上がること間違いなしの1曲!!
その他収録曲にはまた音源未解禁の情熱的なミッドバラード『One More Kiss』を含め、幅広いレパートリーで2019年の夏を彩る!

BROTHERSの岩田さん(岩田剛典)や、同じ年でGENERATIONSの玲奈(佐野玲奈)や隼(小森隼)が合宿を受けているのを見た時に、これがダンサーとパフォーマーの違いか、というのをものに感じて、すごく負けたくないと思ったんです。それがきっかけで本気でパフォーマーという職業を目指しました」

――当時岡山にいた頃は、情報量もそんなに多くないというリアルタイムで対面してインスパイアを受けたりという機会もあまりなかったと思うんですけどオーディションを通じてたくさんの人を見た時の刺激とかはめちゃくちゃありますよね。

山本彰吾EXPGが全国にあるのは知っていたんですけど、まさかそんなに闘志に燃えている人たちがいるとは思っていませんでした。メンバーの翔平(浦川翔平)を初めて見た時に、闘争心に燃えた目つきをしていて(笑)陣さんもそうでした(笑)。リーキーAさんもストリートでやっていた方で、すごくオーラがあったので、一人で岡山から行っていた僕にとってはすごく刺激のあるオーディションでした。でもどこかで絶対負けたくないという気持ちはずっとあったので、そういう気持ちはオーディションの結果にも繋がったんだと思いますし、今ではみんなすごく馬が合う仲間です。そういった意味ではすごく大切な出会いだったなと感じています」

――グループ結成当初はライバル意識もあったんでしょうか？

山本彰吾正式メンバーになる前の武者修行(2016年は、誰か落ちるかもしれないというサバイバル方式でやっていた、その時EXPGでダンスをしていた他のメンバーはLDHの先輩方のバックダンサーの経験もあって僕よりはるかにLDHでの経験が多かったので、地方出身の僕が一番に落ちるとずっと思っていました。でも、武者修行を続けていく上で、グループをつくりあげていくことの楽しさを感じて、そこから自分の生きる道という存在価値を見出していったから、今今の自分があるのかなと感じますね」

――その中でも自分なりの努力はあった？

山本彰吾「それこそリーキーAさんとメンバーの吉野北人は唯一、僕と一緒にEXPG出身ではなかったんで、境遇的には同じでしたね。EXPG出身のメンバーは武者修行の時から既にみんな顔見知りなわけで、そんな中パスで日本中回るとなった時は結構きつかった思い出がありますね(笑)。でも、そんな中でもちゃんと自分を打ち明けるタイミングがあつて、武者修行でメンバーのこともすごく好きになりました。でも当時はかなり辛かったんです(笑)」

――これは裏話ですね(笑)。先ほどの話をふまえて、当時と比べてRAMPAGEとして活動していく中で今感じingことはありますか？

山本彰吾「今はJ、EXILE世代として、GENERATIONSさんとTHE RAMPAGEと、FANTASTICS、BALLISTIK BOYZと一緒にあってLDHを盛り上げようとしている(笑)。今だから、ただTHE RAMPAGEのメンバーではないというかが、LDHという大きな組織にいる自分としてすごく生きがいを感じています。昔とはまた違ったグループの引っ張り方をできているのかなというのもありますし、先輩方にも助けていただきながら、自分なりにどんどん引っ張っていききたいなという気持ちはむしろ一層強まった気がします」

――これからのRAMPAGEとしての夢、また個人としての夢や目標はありますか？

山本彰吾「RAMPAGEとしては、今勢いがあるなと感じていますし、多方面で活躍しているメンバーもいるので、何かひとつ若男女のみなさんに知っていただけるような楽曲を先輩方と同じように僕たちも出していかないといけないなと思いますし、それがあつたらこそそのRAMPAGEの振り幅だと思うので、ヒット曲というのは絶対に欲しいです。個人的には、今シンプルに感じているのは、RAMPAGEとしてグループを引っ張って行ける時に僕はちょうど真ん中の年齢なので、もっとみんなを繋げて引っ張っていきけるような存在になりたいなと思っています。まずそこが第一かなと。個人的な活動は色々なチャンスが降ってきて、色々なスタッフさんの力をお借りしながらやっていけると思っていますけど、やっぱり自分がやるべきことはグループの真ん中に立つてグループを引っ張っていけるように貢献することだと思います」

――自分自身の自覚やモチベーションも1年前、2年前と比べるともっと上がっていますか？

山本彰吾「そうですね。7月のBATTLE OF TOKYOのライブがあつてからは、あからさまに違いますね。久しぶりに燃え尽き症候群になるぐらい色々なことを感じた4日間になりましたね。グループに入ってから、久しぶりの武者修行感を感じられたので、1年前と比べると絶対違うと思いますし、アーティストの山本彰吾としての自覚もしっかり芽生えたのでそこは必ず成長できているかなと思います」

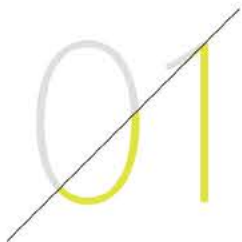
――続いてMUSIC TREEについて、これは本当にすごいなと思ったんですけど、過去MUSIC TREEのステージにダンサーとして出演したことがあるんですよね。すごく驚きました。

山本彰吾「そうですね。もともと小学校4年生から岡山県倉敷市にあったチボリ公園でミュージカルに出させていた時に、ちょうどストリートダンスコンテストもあつて、そのタイミングでうらじゃ祭りもあったので、倉敷チボリ連として精力的に色々なイベントに参加させていたいたりにしていました。僕のMUSIC TREEの印象は、岡山武道館でのステージにたくさんさんのダンサーの中の一人として出演させていただいた記憶があります。その時に初めてアーティストの方を見てすごくテンションが上がったのを覚えています。なので、去年MUSIC TREEのオフアをいただいた時にすごく嬉しくて、マネージャーさんに出たい！とお願ひしたのを覚えています(笑)」

――彰吾さんが生まれ育った、岡山でMUSIC TREEというフェスが2011年から始まり今年目に入りましたんですが、去年そういった想いを持ってTHE RAMPAGEとしてステージに出演していただいたのですが、その時の印象だったり思い出はありますか？

山本彰吾「岡山に住んでいるときは、岡山で踊るというのが普通だったんですけど、RAMPAGEになってから、武者修行をやってみてわかったんですけど、大きいステージに立たせていただくことはあつても、地方で応援してくださる方がたくさんいる中で、そういった方々の近くに行けることってなかなか少ないなと改めて感じたんです。岡山もそうですし、地方のメンバーの出身地もそうですけど、そういった中で地元に戻返しができるというところが素晴らしいなを感じることができました。岡山も今までは「晴れの国」って言われていまし

岡山の盛り上げ方というのが
僕に託されている気がするので、
これからもっと岡山を引っ張っていけるように頑張ります。
(山本彰吾)



——まずは、7月31日にリリースされた新曲「WELCOME 2 PARADISE」について聞かせてください。MVも観させていたいたのですが、今回の楽曲はいつものTHE RAMPAGEさんのハードでエッジが効いているイメージとは違った、夏らしい楽曲だなと感じたのですが、彰吾さんの中ではどんな印象だったのでしょうか？

山本彰吾 やっぱ今言っていたように、RAMPAGEの楽曲は攻めた楽曲が多いので、普段のRAMPAGEの楽曲は近づくにくいなという方にも、夏にリリースされるというところをみんな方にも聴いていただける、RAMPAGEに少しでも近づいていただける夏らしい楽曲だなと感じました。少しEDM要素を取り入れた楽曲を、プロデューサーの方やトラックメーカーの方で作っていたので、RAMPAGEの中では新しい楽曲ですし、ひとつ大人になった、落ち着いたRAMPAGEを表現できた楽曲かなと思います。」

——楽曲はいつもメンバー間で話し合って決まるものなのでしょうか？

山本彰吾「RAMPAGEってちよつと特殊で、もちろん自分たちでもうしたいですという提案はさせていただきながら、色々なスタッフさんがRAMPAGEの良さだったり新しいことを提案してくださるんです。なので、僕たちがやりたいことを理解してくださった上で、新しい楽曲を提案してくださるので、いつもRAMPAGEにバッチリはまった楽曲をリリースさせていただいています。」

——なるほど。今回の「WELCOME 2 PARADISE」はすぐメンブレンド感を取り入れた楽曲だと思っのですが、そういったところも特に意識されているのでしょうか？

山本彰吾 今、若い世代の皆さんはSNSや音楽を楽しめるアプリが身近にある中で、それよりも近くに音楽があると思っんです。地元の岡山もそうですけど、離れている場所にいる人でも近くでRAMPAGEを感じられるのは振り付けだったり、音楽のスタイルだったりすると思っので、RAMPAGEという存在をもっと近くに感じていただけるように、今回の楽曲は聴いていただく皆さんに歩み寄ったような楽曲になっているかなと思っまっ。

——ちなみに今回の楽曲では振り付けは彰吾さんが担当されたんですよね。

山本彰吾 そうですね。めっちゃ考えました(笑)。

——振り付けのポイントだったり注目してほしいところはありますか？

山本彰吾「RAMPAGEはファンの皆さんが見てわかる通り、いつもがめめめと本気で勢よく踊っている場面が多いと思っので、その中でもちよつとゆるく踊れるような振り付けをしたいなと思って今回の振り付けを考えました。これからのフェスなどでも絶対「WELCOME 2 PARADISE」は披露するだろうなと思っので、「一番しんどい時に余裕を持って皆さんと楽しめるような振り付けを作りたいなと思って、僕たちもフツにパフォーマンスできて皆さんも真似できるかなというラインを考えて振り付けを考えさせていただきました。」

——RAMPAGEさんは色々な楽曲があるのですね。バランスが良いというか、幅広さを感じますね。

LDHのファンではない方も多いじゃないですか。
僕たちはそれが逆に燃えるんです。
(山本彰吾)



山本彰吾 普段のRAMPAGEは常に肩間にしわを寄せて力強くパフォーマンスしているので、今回の「WELCOME 2 PARADISE」は良い意味でそれを覆してくれるような新しい楽曲になりましたね。シングル単体で聴いていくと、カッコいい曲が多いと思っんですけど、やっぱりライブ全体で2、3時間通した時に、ずっと攻めているだけだっファンの方皆さんそれだけを観に来てくださっているわけではないと思っので、少しでも来々たうた方に、幸せとか、楽しさを感じていただけるような楽曲は必要なので「WELCOME 2 PARADISE」はRAMPAGEの幅を広げてくれた1曲になっているかなと思っます。」

——毎年RAMPAGEさんのステージって大きくなっていると思っのですが、色々なツアーやライブがある中で日々メンバー間や個人的にも感じることはありますか？

山本彰吾 そうですね。RAMPAGEは16人いる分、16通りの考え方がありますし、16通りの身体があるので、それを上手く活かさないといけない部分もあるんですけど、LDHに所属させていたでいることでRAMPAGEを自分たちなりにコントロールしている部分もあるので、RAMPAGEの方向性はみんな毎日話し合っていますし、意思疎通をし合っていますね。ライブではとことん自分を追い込むというのもRAMPAGEスタイルだと思っますし、そういったことを突き詰めていくのは日々やっています。日々の活動が、夏フェスだったりライブ全てに通じていると思っていますし、RAMPAGEならではの気合いの入れ方もグループにとって大切なことだと思っます。それぞれの現場で臨機応変にみんな話し合いながらステージに立っていますね。」

——自分たちのツアーと色々なアーティストさんが出演されるライブとはまた違ったりするのでしょうか？

山本彰吾「一昨年のイナズマロックフェスだったり、去年のMUSIC TRIIBEもそうですが、LDHのファンではない方も多いじゃないですか。でも僕たちはそれが逆に燃えるんです。僕たちはありがたいことに、武者修行をさせていたでいる時から、良い意味でLDHの先輩方のファンの皆さんに助けられている部分もあるので、フェスはただ音楽が好きで来ている方々がいる中でRAMPAGEがどれだけ盛り上げられるかということも僕たち自身大切にしています。RAMPAGEを知らない方をどれだけ盛り上げられるかということに、すべく気合が入ったりもするのでフェスは大切な場所ですね。」

——アウェイではないけど、自分たちのホームとはまた違っところに行くこと余計にバイブスが上がりますよね。今のパフォーマンスにも通ずるところがあると思っんですが、彰吾さんがダンサーを目指したきっかけは、

山本彰吾 きっかけはたくさんあるんですけど、RAMPAGEを目指したきっかけはオーディションですね。EXILEさんの新メンバーを決めるためのオーディションを受けたのがきっかけなんですけど、そもそもオーディションを受けるきっかけになったのが、ダンスをしていた高校3年生の時に知り合いのダンサーやラッパーを集めて主催のイベントを打っていました。その時は、ライブとか切磋琢磨し合ってみたいなのはあまりなくて、そういった場を提供している側だったので僕自身も何か物足りなさを感じている中で、母からPBA（PREFORMER BATTLE AUDITION）を勧められたのがきっかけです。最初は軽い気持ちで参加していたんですけど、そこで合宿まで行かせていたでいて、EXILE／三代目 J SOUL

54 JAPAN MOVE UP WEST

MUSIC TRIBE special interview 01

interviewer
Lugz&Jera
X
山本彰吾
(THE RAMPAGE from EXILE TRIBE)
GUEST



MUSIC TRIBE 2019を、 1000倍、楽しむ方法!!

by JAPAN MOVE UP WEST 編集部♪

MUSIC TRIBE 2019 出演者の **サイン入りTシャツ**をプレゼント!

ご来場いただいた方の中から抽選で、出演者のサイン入りTシャツが当たる!

DAY1&DAY2とも、終演後に会場内で当選番号が発表されますので、ぜひ最後までMUSIC TRIBEをお楽しみください!

フォトブース設置中! SNS投稿で **限定プレゼント** をゲットしよう!

Instagramに投稿していただいた方の中から抽選で限定プレゼントが当たる!!

- 1 入場口横に設置されている、MUSIC TRIBE 2019の巨大ロゴの前で写真を撮影!!
- 2 写真を指定ハッシュタグをつけてご自身のInstagramに投稿!
※指定のハッシュタグはフォトスペースのポスターをご確認ください。
- 3 JAPAN MOVE UP WESTとMUSIC TRIBEのInstagramアカウントをフォロー!
※非公開アカウントに設定されている方は応募対象外となりますのでご注意ください。



MUSIC TRIBE 2019 の **舞台裏スペシャルムービー** を配信!

出演アーティストが撮影した舞台裏の映像や、ここでしか見ることのできない舞台裏スペシャルムービーを配信!

配信についての詳細はJAPAN MOVE UP WESTの公式SNSにて近日公開!

当日JAPAN MOVE UP WESTインスタグラムアカウントから **インスタライブ配信!**

開演前と終演後に舞台裏の映像をインスタライブで配信します!

JAPAN MOVE UP WEST公式Instagramをフォロー&通知をつけて配信をCHECK!

and more ...!!!!!!

MAKOTO
DANCE
COMPANY





JAPAN MOVE UP WEST web

フリーペーパーだけでなく、**JAPAN MOVE UP WEST web** も
MUSIC TRIBE 2019 と **コラボ中!!** 様々な **コラボ企画** を要チェック!!

コラボ企画の閲覧は一部、無料の会員登録が必要です。

Access now!



JAPAN MOVE UP WEST webはコチラ!!

JAPAN MOVE UP WEST



<https://www.japanmoveupwest.com>

JAPN MOVE UP WEST公式アプリもダウンロード!!

アプリ検索はコチラ!

MOVE UP



FREE ^{JMUW} vol.39
Aug. 2019

QooCam of ATOP Presents... 西日本最大級屋内音楽フェス

MUSIC TRIBE 2019

Supported by TSUTAYA JOY URBAN

special edition

5+4

JAPAN MOVE UP **WEST**

MUSIC TRIBE SPECIAL INTERVIEW 01

Lugz&Jera × 山本彰吾
(THE RAMPAGE from EXILE TRIBE)

MUSIC TRIBE SPECIAL INTERVIEW 02

SUGAR SHACK FAMILY

MUSIC TRIBE SPECIAL Feature

Artist's comment

